

セントラルパーク構想提言業務（中間報告）の要約

提言：安藤忠雄建築研究所

1. コンセプト

『心を咲かせる』 浜松市民の心のセントラルパーク

- ・ あるものを活かした、こらからの 100 年を超えていく公園
既存の魅力ある都市資産を最大限に活かしたまちづくり、浜松の歴史を踏まえつつ、これからの 100 年を超えていける公園を提案する。
- ・ 都市の核
都市全体をまとめるシンボルとなり、景観と文化を人々の生活へとつなげることが重要となる。
- ・ 市民とともに成長するまちづくり
次の 100 年を見据え、市民とともに成長するまちづくりとその核となるセントラルパークの整備を提案する。

2. 計画区域の分析

- ・ 美しいが、何かが足りないまち
まちが人間のスケール感に適合していないため、美しいが何かが足りない印象となっている。
- ・ 『核』が無いまち
都市の中心が無く、散漫な印象を受ける。

3. コンセプトを実現するためのアイデア

- ・ 過去を継承し、未来へつなげる
浜松城の場のあり方を尊重した立体的な公園、浜松城公園としての風景は壊さないで「現代の浜松城」をつくることを提案する。
- ・ 既存の特徴を活かしてつくる
既存の地形や配置を活かした公園とすることを提案する。
- ・ 桜
人が集まる場所とするために、日本人の心を束ね、人が集まることの象徴でもある桜を植えることを提案する。
- ・ 育てるまち
市民とともにまちが成長することを強く実感してもらうために、花や緑を市民に育ててもらうシステムを提案する。

4. ゾーニングについて

- ・ 大手通り沿いのゾーンは、「公園の顔となるべきエリア」とする。
文化センター（教育文化会館、文化創造センター）、さくら広場、現代の堀、浜松インフォメーションセンター、駐車場を配置する提案
- ・ 浜松城天守閣を中心としたゾーンは、「地形と植栽が豊かな公園エリア」とする。
新美術館、立体庭園を配置する提案
- ・ 茶室のある北側ゾーンは「落ち着きのある文学との対話エリア」とする。
文学の庭とする提案
- ・ 浜松城公園の西側のゾーンは「自然に恵まれた子どもたちの学びのエリア」とする。
小中一貫校を配置する提案
- ・ 現市役所ゾーンは、「浜松城へのアクセス・ビューの軸を形成するエリア」とする。
さくら広場、現代の堀を配置する提案